

保育職に対する意識調査

— 4年制大学保育資格取得希望学生の調査 —

柳 澤 緑・柏瀬 愛子

A Research on Occupational Consciousness of Specialists in Nurture

M. YANAGISHAWA and A. KASHIWASE

はじめに

幼児教育の重要性が問われている今日、教育に携わる保育者の質の向上が望まれている。保育者養成制度の向上には、厚生省、および厚生省後援の全国保育養成協議会などの団体が、昭和38年7月、中央児童福祉審議会保育制度特別部会中間報告「保育問題をこう考える」(保育7原則を具申①)、昭和39年9月、全社協保育協議会保育制度研究会、保育所、幼稚園一元化について中間報告、昭和45年1月中央児童福祉審議会、「児童福祉に関する当面の推進策について」意見具申、保育養成所における教育課程の改正について提言②、などの経過をへて、資格制度と共に検討を加え保育者の専門性を明らかにし、制度のあり方を考えてきた。また、保育者養成機関にとってもすぐれた専門性を身につけた保育者を育てるのは、重大な課題であることはいうまでもないが、それを受ける側はどうかだろうか？

今年度は本学に保育資格取得制度が設置され、初めての保育実習を経験することになった。そこで、学生のもつ保育職に対する考え方や問題点を明らかにし、また保育実習のもつ影響力および重要性について調査、検討を行った。なお、保育実習対象者の人数が少ないので、幼稚園教育実習にでる学生に対しても同じ調査を行ない比較もした。

調査対象および方法

調査対象として名古屋女子大学在学学生(幼稚園1級免許取得、並びに保育資格取得希望者)3年生88名、4年生83名とした。

調査方法は質問紙により、4年生については幼稚園教育実習をはさんで、昭和55年5月28日に第1回を、同年6月18日に第2回を実施し、3年生については保育所実習をはさんで、昭和55年6月28日に第1回を、同年7月8日に第2回を実施した。実習については、3年生、4年生ともに初めての経験である。

調査内容は児童学専攻志望の理由、資格取得希望の有無とその理由、就職希望の有無、保育職のとらえ方、保育者として必要なこと、保育職に対する適否とその理由などである。

なお、結果および考察で比較する短大の数字は、昭和55年5月、日本保育学会において中田カヨ子氏らにより発表された全国私立保育科系短大生の意識調査(対象者3055名、入学直後に調査)を使わせていただき転載したものである。

結果および考察

結果は表を読みやすくするためパーセントで表示し、 χ^2 検定は得票数について行った。

Table 1 大学入学の目的は何であったと思われるか（1個選択）

	短大(大学)	3 年 生	4 年 生
教養を深める	30% (45%)	25.0%	22.9%
学園生活を楽しむ	23% (9%)	9.0%	19.3%
良い友人を得る	19% (8%)	3.4%	1.2%
学問を研究する	16% (13%)	7.9%	14.5%
就職準備	16% (24%)	52.3%	38.6%
その他	*	1.1%	0
わからない	*	1.1%	1.2%
無 解 答	*	0	2.4%

Table 2 あなたが在学している学科が第一志望ですか

	短 大	3 年生	4 年生
ハ イ	91.2%	71.6%	65.1%
イ イ エ	8.7%	28.4%	34.9%

Table 1 の短大（大学）の結果は昭和52年12月7日朝日新聞キャンパス東海（私立大学白書）より転載
*印は記載がなかった。

Table 1 は、大学入学の目的を問う質問の結果である。Table 1 における短大（大学）の結果は昭和52年12月7日、朝日新聞キャンパス東海「私立短大白書まとまる」より転載したものである。これを見ると、他の大学の平均にくらべ、本学は先生になるという目的意識をもって入学する学生が多く、それは3年生の方がより強く出ている。

また、Table 2 の「第1志望であったかどうか」の結果をみると、やはり3年生の方が第一志望として本学に入学している者が多い。しかし、日本保育学会において発表された保育科系短大の調査結果よりはパーセントが低くなっている。これは本学が4年生大学であることも関係しているのであろうが、年が進むにつれ第一志望者は増していくのではないと思われる。

Table 3 は「本学が第一志望でない」と答えた者の希望学科の一覧である。希望は多支にわたっており、特に3年生では福祉学科を第一志望にしていた者が多くめだっている。

保育系学科の志望者にその理由を質問すると、4年生では、「保育者として仕事がしたい」が圧倒的に多く50%もある。これは就職を目前にひかえているからであろう。また3年生では、Table 1 において「就職準備」が52.3%もあったにもかかわらず、「保育者として仕事がしたい」と答えた者が36.5%と低い結果になっている。「子供が好きだから」「将来、役に立つこともあるから」の項目の選択も多いことを考えあわせると、保育職というものが3年生にとってまだまだ身近になっていないのであろう。

Table 5, Table 6 をみると、3年生は100% 保育資格を取るつもりであり（3年生は卒業と同時に単位を充足すれば、幼児1級と保育資格がとれる）4年生は、自分で、県の行っている保育

Table 3 イイエと答えた者の希望学科(数字は人数)

3 年生	福祉学科7	英文科2	衛生科1
	教育学部3	美術系1	哲学科1
	本学児教3	歴史科1	
	国文科3	心理系2	
4 年生	英文科5	体育学科2	心理系1 社会学科1
	本学児教4	国文科2	英米科1 ナ シ1
	文学部4	被服科1	教育学部1
	歴史科3	生物系1	美術系1

資格試験を受け資格を取らなくてはならない事情もあり、パーセントが低い。また、保母資格取得の理由としては、やはり「就職に有利」「将来、何かに役立つ」が圧倒的に多い。

Table 7～9は「卒業後、保育職に就きたいか」、「就きたい者はどこへ勤めたいか」、「いつまで勤めたいか」を質問した結果である。Table 7については、短大、本学ともにほとんど差はない。Table 8からわかるように実習の前後で就職希望の変化がみられる。実習を終えてくると「わからない」と答えるパーセントが3年生、4年生ともに増え、また4年生は保育所、施設希望者が減っている。これは実習において、生身で体験したことがら、勤め先の変化をおこさせるのであろう。特に4年生は身近に就職がせまっております、労働条件

Table 4 保育学科の志望の理由は
何でしょう（1個選択）

	短大	3年生	4年生
保育者として仕事がしたい	35.4%	36.5%	50.0%
子供が好きだから	30.6%	30.2%	25.9%
将来役に立つこともあるから	27.8%	27.0%	13.0%
育児に役立つから	3.9%	1.6%	0
他人にすすめられて	*	0	0
その他	*	3.1%	9.3%
無解答	0	1.6%	1.6%

*は記載がなかった

Table 5 あなたは卒業までに
保母資格を取るつもりですか

	短大	3年生	4年生
イエ	0.3%	0	16.9%
ハイ	99.7%	100%	59.3%
すでに持っている	*	0	23.6%

*印は記載がなかった

Table 6 イイエの理由、ハイの理由（自由記述）

（数字は人数）

	3年生	4年生
イイエの理由	ナシ	必要がない15 志望方向変わる1 卒業後にとる2 幼稚園、保育園共就職しない2
ハイの理由	保母になりたい 19 就職に有利、役立つ 28 将来何かに役立つ 16 4年間の勉強のあかしに 2 資格を持っていたい 5 施設への就職考えている 10 保母にもやりがいがある 1 卒業してから資格をとる余裕がない 1 ケースワーカーになるため 1 無解答 5	就職に有利、役立つ 28 保育職に就きたい 4 福祉施設には必要 2 将来何かに役立つ 10 幼稚園、保育園の両方の勉強をしたい 2 幼稚園の内容にも役立つ 3

とともに「ほんとうに自分にむいた職業なのだろうか？」という再認識を実習を通して行うのではないだろうか。

「保育職につきたい」と答えた者の半数以上が、幼稚園に勤めたいと希望している。それでは幼稚園、保育所、施設、そ

Table 7 卒業後保育職に就きたいですか

	短大	3年生(保育所)		4年生(幼稚園)	
		実習前	実習後	実習前	実習後
ハイ	86.7%	85.2%	90.8%	89.0%	89.2%
イエ	10%強	14.8%	8.0%	11.0%	9.6%

れぞれにどのようなイメージをい
だしているだろうか。幼稚園につ
いては、3、4年生ともに「明る
い、見た目が良い、女性的できれ
いな職場、教育の場、カリキュラ
ムに従って教育する、社会化を身
につけさせる、能力、権利を発揮
できる」など、労働の面でも環境
の面でも良いイメージをもってい
る。特に「教育の場」としての幼
稚園を強く認識しているようだ。
保育所については、「長時間でたい
へん、子供と遊ぶ、アルバイト的、
パート的、世話をする、子守教育
が重視されない」など幼稚園にく
らべ多くの者が良いイメージをも
っていない。しかし「本来の保育の
姿がある、保母の影響大、知識の
広さが必要」など幼児教育の重要
性にめざめている学生も少なく
ない。施設について、「ボランティア
活動、専門的知識が必要、聖職、相
互信頼感が強い、大きな喜びと生
きがいを得られる、重労働」など、
やれば素晴らしい仕事であることは認めているが、「はたして自分にできるだろうか？」という
疑問が学生たちの心の中でいつもうごめいているのではないだろうか。

Table 9 からは、半数の者が子育ての時期は除いても、保育職を生涯の仕事として考えている
ことがわかる。

Table 10-a から Table 11-b までは、保育職について質問したものである。

短大、本学との比較をみると、1位、2位がまったく逆転している。④「重要で社会的に認
められている」の項目は、短大において4位を示しているが、本学では低い順位である。⑥「向
上心、研究心が必要」の項目は④とは逆に、本学において高い順位を示している。実習前後の
変化をみると、⑥「向上心、研究心が必要」の項目が3年生、4年生共に順位が上がっている。
4年生においては特に、⑨「高度な専門的技術が要求される」という項目の順位の上昇がめだっ
ている。特にここで考えなければならないことは、4年制大学である本学において保育職とい
うものを「重要で社会的に認められている」と考えている者が少ないことである。

実習前後の変化をみると、3年生では、⑤「女性にふさわしい職業」の項目と、⑥「向上心、
研究心が必要」の項目、4年生では、⑨「高度な専門的技術の要求」の項目において、5%お
よび1%の危険率において有意差がみられた。このことは、これらの項目において、教育実習
が学生の考え方に影響を与えたことを示している。Table 10-a の順位の変化を加えて考えてみ
ると、3年生、4年生ともに「向上心、研究心が必要」ということを教育実習から学びとり、

Table 8 保育職へ就きたいと答えた方
どこへ就めたいですか

	短大	3年生(保育所)		4年生(幼稚園)	
		実習前	実習後	実習前	実習後
幼稚園	62.1%	74.7%	56.8%	89.0%	92.0%
保育所	18.5%	18.7%	18.5%	2.7%	1.4%
施設	7.4%	4.0%	2.5%	2.7%	1.4%
わからない	11.5%	2.6%	17.3%	1.4%	4.1%
その他	0	0	4.0%	4.1% (養護含む)	1.4% (養護含む)
無解答	0	0	1.2%	0	0

Table 9 保育職へ就きたいと答えた方
いつまでつとめたいですか

	短大	3年生(保育所)		4年生(幼稚園)	
		実習前	実習後	実習前	実習後
生涯の仕事として	33.6%	26.7%	25.3%	35.6%	35.1%
一時やめて子供が 大きくなったら	30.9%	37.4%	34.2%	20.5%	21.6%
まだわからない	24.6%	25.3%	25.3%	28.8%	28.3%
結婚するまで	6.5%	5.3%	6.3%	6.8%	5.4%
出産するまで	3.7%	5.3%	8.9%	6.8%	8.1%
その他	*	0	0	0	1.4% (結婚後)
無解答	*	0	0	1.4%	0

* は記載がなかった

Table 10-a 保育職をどのようなものだと思いますか(上位3つを選択)

	短大	3年生(保育所)		4年生(幼稚園)	
		実習前	実習後	実習前	実習後
① 子供が好きでなくては勤まらない	1	2	2	2	3
② 心身ともに頑健でなければならない	2	1	1	1	1
③ しっかりした人生観, 教育観がなければならない	3	3	4	4	4
④ 重要で社会的に認められている	4	9	8	6	8
⑤ 女性にふさわしい職業である	5	5	5	5	7
⑥ 向上心, 研究心がなければいけない	6	4	3	3	2
⑦ 対人関係がむずかしい	7	6	7	8	6
⑧ 地味でありめだたない	8	8	10	6	9
⑨ 高度な専門的技術が要求される	9	7	6	9	5
⑩ 無解答	10	10	8	9	9

(数字は最も多く選択された順位)

Table 10-b

(* $p < 0.05$ ** $p < 0.01$ $df=1$)

	3年(保育所)		χ^2 検定	4年(幼稚園)		χ^2 検定
	実習前	実習後		実習前	実習後	
① 子供が好きでなくては勤まらない	27.1%	23.3%		27.9%	23.0%	
② 心身ともに頑健でなければならない	29.8%	32.6%		30.6%	30.2%	
③ しっかりした人生観, 教育感がなければならない	10.7%	9.3%		13.2%	14.9%	
④ 重要で社会的に認められている	1.8%	0.8%		1.4%	0.5%	
⑤ 女性にふさわしい職業である	7.8%	5.1%	* 3.69	5.1%	1.8%	
⑥ 向上心, 研究心がなければいけない	10.2%	20.8%	** 9.65	18.7%	23.9%	
⑦ 対人関係がむずかしい	4.4%	1.7%		0.9%	2.3%	
⑧ 地味でありめだたない	2.2%	0.8%		1.3%	0	
⑨ 高度な専門的技術が要求される	3.1%	3.8%		0.5%	3.6%	* 5.56
⑩ 無解答	0.9%	1.3%		0.5%	0	

また4年生は、幼稚園実習ということから、「高度な専門的技術の要求」をより強く感じたのであろう。と同時に保育職というものは、「女性にふさわしい職業」という甘い考えだけではやっていけないことを体得したのであろう。

短大、本学の比較をみると、②「子供が好き」③「健康である」④「熱意がある」⑤「根気強い」などに順位の違いがみられる。また、3年生、4年生ともに順位のつけかたにかなりの

Table 11-a 保育者として必要なもの（上位3つ選択）

	短大	3年生(保育所)		4年生(幼稚園)	
		実習前	実習後	実習前	実習後
① 子供を理解すること	1	1	2	3	2
② 子供が好きであること	2	4	5	4	4
③ 健康であること	3	2	1	2	3
④ 熱意(意欲)があること	4	3	3	1	1
⑤ 根気強いこと	5	7	12	13	10
⑥ 明朗活発であること	6	5	4	5	5
⑦ 責任感が強いこと	7	6	6	10	8
⑧ 指導力があること	8	10	11	15	13
⑨ 円満な人から	9	10	12	6	10
⑩ 専門的知識, 技術があること	10	8	6	13	15
⑪ 創造力に富んでいること	11	9	8	12	12
⑫ 社会的常識があること	12	*	*	11	13
⑬ 研究心があること	13	10	9	9	6
⑭ 協調性があること	14	14	*	*	16
⑮ ピアノがよくひけること	15	13	*	*	*
⑯ しっかりした人生観, 教育感をもっていること	—	13	10	7	8
⑰ その他	16	*	*	*	*
⑱ 無解答	17	*	14	7	7

(数字は最も多く選択された順位 *：選択なし)
(短大において⑯の項目はなかった)

違いがみられ、特に1位のつけかたに大きな違いがある。実習前後の変化をみると、3年生では、①「子供を理解する」の項目と③「健康である」の項目の順位の入れかえがみられ、⑯「しっかりした人生観、教育観」という項目の順位が大きく上昇している。⑤「根気強い」という項目は、3年生では実習後順位が下り、4年生では実習後順位が上るというおもしろい結果を示している。

Table 11-b からわかるように、3年生では、③「健康である」の項目、4年生では、⑫「社会的常識がある」の項目に、5%の危険率において有意差がみられた。Table 11-a を加えて考えてみると、Table 10-a の質問に比べ選択の仕方にちらばりがみられる。また、実習前後の比較においてはままとまった傾向を示すものはみられなかった。

Table 10-a から Table 11-b までを通してみると学生は、観念的には、多くの者の意見の一致がみられるが、Table 11-a のように具体的なレベルの事柄では、それぞれ異った考え方をもっているようだ。しかし Table 7 から Table 11-b によって、実習がもつ学生の考え方に与える影響力が少なからずとも明白になったのではないだろうか。

Table 11-b

(* $p < 0.05$ $df = 1$)

	3年生(保育所)		χ^2 検 定	4年生(幼稚園)		χ^2 検 定
	実習前	実習後		実習前	実習後	
① 子供を理解すること	23.6%	20.1%		17.7%	19.7%	
② 子供が好きであること	11.6%	8.8%		10.0%	8.8%	
③ 健康であること	14.7%	21.8%	* 3.88	18.6%	14.9%	
④ 熱意(意欲)があること	14.2%	13.4%		19.0%	22.8%	
⑤ 根気強いこと	4.9%	2.1%		1.7%	2.1%	
⑥ 明朗活発であること	8.4%	10.0%		6.5%	7.5%	
⑦ 責任感が強いこと	5.3%	4.2%		3.0%	3.1%	
⑧ 指導力があること	2.2%	2.9%		1.3%	1.3%	
⑨ 円満な人から	2.2%	2.1%		4.3%	2.1%	
⑩ 専門的知識, 技術があること	3.5%	4.2%		1.7%	0.9%	
⑪ 創造力に富んでいること	2.7%	3.8%		2.2%	1.8%	
⑫ 社会的常識があること	0	0		2.6%	1.3%	* 6.01
⑬ 研究心があること	2.2%	3.3%		3.5%	6.6%	
⑭ 協調性があること	1.3%	0		0	0.4%	
⑮ ピアノがよくひけること	1.3%	0		0	0	
⑯ しっかりした人生観, 教育観をもっていること	1.8%	2.9%		3.9%	3.0%	
⑰ そ の 他	0	0		0	0	
⑱ 無 解 答	0	0.4%		3.9%	3.5%	

Table 12 保育職に就かないと答えた方どの方面に進みたいですか

(数字は人数)

	3年生(保育所)		4年生(幼稚園)	
	実 習 前	実 習 後	実 習 前	実 習 後
結 婚	2	1	0	0
()内はうちわけ	10 (マスコミ関係1) 企業2 自 営1 心理関係1 公務員1	6 (マスコミ関係1) 企業3 公務員2	9 (公務員4) 企業2 (マスコミ関係1) 小学校教員1 音楽関係1	7 (公務員2) 企業2 (マスコミ関係1) 福祉関係1 小学校教員1

Table 12, Table 13からわかるように, 保育職に進まない者も何らかの職業をもち, 4年生では半数の者が「子育ての時期を除いても生涯仕事を続けたい」と答え, 3年生では, 30%前後の者が同じように考えている。また, 実習の前後を比較してみるとかなりの変化がみられる。

やはり、実習というものは保育職に進まないと考えている者に対しても大きな影響力があるのだろう。

「本学に入学して満足していますか」という質問に対して、3年生、4年生ともに60%以上の者が「満足」か「まあまあ満足」と答えている。Table 2において、3年生で71.6%、4年生で65.1%の者が本学を第一志望としている結果を加えて考えれば、妥当な数字であると思われるが、4年生の結果において、実習の前後で「どちらともいえない」と答えていた者が減り、「まあまあ満足している」という項目が13.3%も増えている。これは、実習中は個人の名前よりも名古屋女子大学の学生という見かたが重視され、名古屋女子大学学生への評価というかたちで多くのことを聞き、そして学んだために、学生自身に「名古屋女子大学の学生」という自覚がより強く感じられるようになったためではないだろうか。

Table 13 保育職に就かないと答えた方
いつまでつとめますか

	3年生(保育所)		4年生(幼稚園)	
	実習前	実習後	実習前	実習後
生涯の仕事として	20.8%	33.3%	33.3%	42.8%
一時やめて子供が大きくなったら	10.0%	0	22.2%	14.3%
まだわからない	40.0%	66.7%	33.3%	14.3%
結婚するまで	30.0%	0	11.2%	28.6%
出産するまで	0	—	—	—

Table 14 本学に入学して満足していますか

	3年生(保育所)		4年生(幼稚園)	
	実習前	実習後	実習前	実習後
満足している	18.4%	11.5%	25.0%	24.4%
まあまあ満足している	42.5%	50.6%	33.0%	46.3%
どちらともいえない	29.9%	28.7%	24.0%	15.9%
少し不満	6.9%	3.4%	11.9%	8.5%
不満である	2.3%	2.3%	3.6%	3.7%
無解答	0	3.5%	2.4%	1.2%

Table 15 あなたは今、何かなやみごと(不安)がありますか

	3年生(保育所)		4年生(幼稚園)	
	実習前	実習後	実習前	実習後
なやんでいる(不安がある)	49.4%	40.2%	76.2%	72.0%
なやんでいない	35.6%	40.2%	9.5%	15.9%
わからない	14.9%	16.1%	14.3%	12.1%
無解答	0	3.5%	0	0

Table 16 あると答えた方それは何についてですか(自由選択)

	3年生(保育所)		4年生(幼稚園)	
	実習前	実習後	実習前	実習後
勉学上のこと	18.3%	16.9%	5.7%	10.3%
健康上のこと	8.4%	3.4%	4.5%	5.1%
友人、対人関係	8.4%	8.5%	6.9%	6.4%
人生観について	5.6%	10.2%	4.6%	5.1%
就職、将来の進路について	39.4%	47.5%	67.8%	64.1%
異性の問題について	8.5%	6.8%	1.1%	1.3%
家族や家庭内のことについて	5.6%	3.4%	5.7%	3.8%
学費、家計などお金の問題について	0	0	2.3%	0
政治、経済など一般社会問題について	0	0	0	0
その他	5.6%	1.7%	1.1%	0
無解答	(自分の性格実習の不安)	(施設実習の不安)		3.8%

Table 17 不安やなやみをどのように解消していますか（自由選択）

	3 年生（保育所）		4 年生（幼稚園）	
	実習前	実習後	実習前	実習後
友人に相談する	42.0%	39.2%	30.1%	31.8%
先輩に相談する	5.8%	5.4%	4.5%	2.3%
自分で読書等により解消する	9.3%	9.5%	9.7%	6.2%
先生に相談する	3.5%	1.4%	6.8%	9.3%
家族に相談する	18.6%	24.3%	22.6%	22.5%
なりゆきにまかせる	14.0%	17.6%	13.5%	12.4%
医師に相談する	2.3%	0	0	0
その他	4.7%	2.7%	3.0%	4.7%
	(いろいろな人と相談)	(自分自身で考える)	(自分自身で考える)	
無 解 答	0	0	9.8%	10.9%

Table 15からTable 17は、なやみ（不安）についての質問の結果である。なやみ（不安）があると答えた者のうちで「就職、将来の進路について」の項目が最も多く、その解決方法は、友人や家族など、身近な人に相談する者が多い。しかし最終的には全ての者が先生と相談して決定することになる。

ま と め

短大生、他大学との比較において、本学の場合、目的意識をもって入学し、またその目的を全うしようとする傾向がみられる。また学年が進むにつれ、実習を重ねるにつれ、「研究心、向上心が必要」、「専門的技術が必要」などという事柄を重要視する傾向がみられ、実習が学生自身の考え方にかかなりの影響を与えることがうかがわれる。しかし「社会的地位」については、高く評価されているとは考えておらず、その理由の解明はこれからの研究課題であろう。今後さらに研究を進めていきたい。

よりよい保育者養成をめざそうとするとき、養成機関の態度としても入学当初より、保育者の資質について学生を目覚めさせる方向づけをしていくことが大切であり、この結果からもうかがえるように小手先だけの技術に終始するのではなく、しっかりした価値観、教育観を身につけさせ、ひいては自己の確立をはからせることが必要ではないだろうか。

なお、昭和55年11月に開催された全国保育養成協議会研究大会において、本調査の一部を発表したことを付記する。

文 献

- 1) 中田カヨ子他：第33回日本保育学会要旨、263 264（1980）
- 2) 吉田昇他：現代の青年の意識と行動 50～57 97、日本放送出版協会（1978）
- 3) 神田道子他：現代女性の意識と生活 40～45 116～118、日本放送出版協会（1978）